日本農業新聞　「野良ばなし」　15.8.28

【　台風の進路と農作物被害　】

８月 9 日～10 日、台風 10 号が日本列島をゆっくりと縦断し、各地に強風や大雨による大災害をもたらした。台風の接近につれ、ニュースや気象情報の解説で「中心から 100 ㌔以内は 25 ㍍以上の暴風雨、300 ㌔以内は 15 ㍍以上の強い風が吹いています」という言葉をしばしば耳にする。

この風速の基準を凡その目安で示すと、秒速 15 ㍍の風は、樹木の大枝が揺れ、風に向かって歩きにくくなる強さ。25 ㍍を越えると、樹木が根こそぎ倒されたり（風倒木）、人家にも大きな被害を与えるようになる強さ。

昭和 34 年９月 25 日、戦後最強の「伊勢湾台風」が日本の南海上を北上していた。

気象庁は九州から四国、近畿、東海地方にかけて上陸の恐れがあるという台風情報を発表し、厳重な警戒を促していた。

当時の大阪府のブドウの産地、柏原農協の話。強風で被害が予想される風上側のブドウを先に収穫するため、台風のコースが伊勢湾か、大阪湾を直撃・通過するのかの情報収集に全力を尽くしていた。

台風にともなう強風は、中心に向かって時計の針の進行と逆方向に回りながら吹き込んで来る。よって、台風が自分の住んでいる場所の東側で北東コースを通る場合、強風の向きは東から北東、北へと変化し、西側を通過すると強い風は東から南東、南へ変わって行く。

柏原農協では、台風が伊勢湾に向かう公算が大きい（北東コース）とされる時は、東から北側斜面のブドウの収穫を急げばよい訳である。

このように、台風の風対策は、他の農作物や一般家庭でも応用できるので、参考にして欲しい。

（　気象情報システム株式会社　高　津　敏　）